

# いま、同じ空の下で

— 日本の子どもたちに伝えたい 世界の子どもたちのストーリー —







# 「勉強する以外に、夢をかなえる方法を知らないから」

## —ゆるぎない「学びたい」気持ち—

シリア サジャさん 13歳



体操の選手だった、サジャさん。黒い瞳が印象的なシリアのアレッポ出身の女の子です。シリア紛争が始まったのは、サジャさんが7歳の時でした。

「紛争が起こる前は、安心して外出できました。危険な目にあうのではないかと、心配することはありませんでした。すてきな生活でした」

しかし、紛争による爆撃がサジャさんからたくさんものを奪っていきました。家族と過ごす穏やかな日々。安全な住まい。仲良しの友だち。そして、大切な左足—。

「ひとりになってけがのことを考えると、とても怖くなります。それから、お兄ちゃんが死んだこと。思い出すと、とても悲しく、怖くなります」

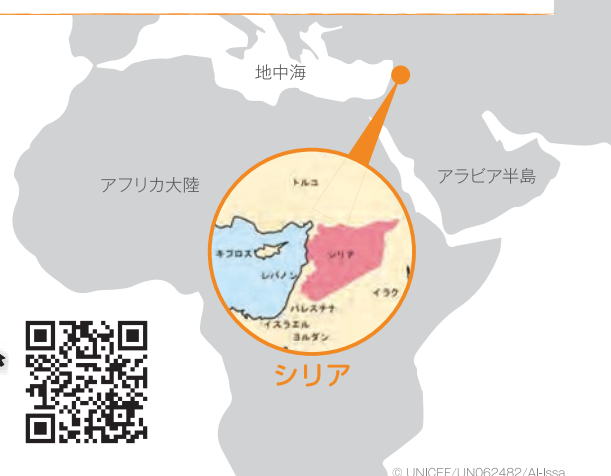
そんなサジャさんにとって、楽しいのは学校に通うこと。学校で友達と一緒に勉強したり、交代で読み聞かせをしたり、遊んだりすることが一番の楽しい時間です。サッカーだってします。一方で、大変なのは学校が遠いこと。遠い道のりを学校まで通うのはひと苦勞ですが、がんばって通っています。

「一番の望みは夢をかなえること」とサジャさんは言います。サジャさんの夢は体操のコーチになることです。

「どんなに大変でも学校に通い続けたい。勉強する以外に夢をかなえる方法を知らないから。世界中の子どもたちにも、勉強を続けてと伝えたいです。勉強をしなかったら夢をかなえることも世界を平和にすることもできないから」

ゆるぎない「学びたい」気持ち、将来への希望をもって、今日を力強く生きています。

シリア紛争は今年4月でまる6年が経過しました。6年といえば日本では小学校に入学して卒業するまでの時間と重なります。避難民となった子どもたちがこれだけの年月、十分な教育の機会を得られず、このままではシリアの今後の世帯を失うのではないかと国連では危機感を募らせています。



シリア 片足を失った少女

検索

「私の一番大切なものは、足。体操の選手だったから、将来は体操のコーチになりたいです」サジャさんが語ります。  
<https://www.youtube.com/watch?v=D9DZA1Svf5o>



© UNICEF/UN062482/AH-Issa

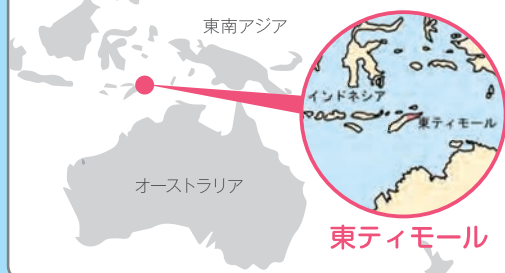


## 「水くみに毎日3時間はかかるの」 東ティモール エルゼートさん 9歳

日本と同じアジアに位置する東ティモール。9歳のエルゼートさんは毎朝5時に起きて、家族のために家から一番近い山のわき水をくみにいきます。「家から一番近い」と言っても、この水源まで30分かかります。水を集める仕事は女の子の仕事になることが多く、家を出てから、水をくんで帰ってくるのにだいたい1時間ほどかかります。

エルゼートさんは、1つ5キロにもなる水の容器を2つ持って、狭くて急な坂道の続く山道を歩いて家に帰ります。そしてこれを一日に2~3回繰り返します。

「水入れを2つ持つのはすごく重い。2つは持てるんだけど、3つは、腕が痛くなるから持てないの」とエルゼートさんは言います。



© UNICEF/UNI132911/Alcock



© UNICEF/UNI132910/Alcock

エルゼートさんは、90分かけて歩いて学校に通っていますが、学校に遅れたり、疲れ果てて学校にたどり着いたりすることもしばしばです。

「学校が終わると、友達のエルリンダとまた長い道を歩いて水をくみにいかないといけないの。水くみに毎日3時間はかかるの。私の家族は毎日の料理、洗濯、飲み水、トイレの水に16本分が必要なの」

エルゼートさんの住む、こうした田舎の村では、10家族中4家族が、こうした自然からわき出る不安定な水源を頼りに生きています。

## 「家族のため、毎日の食事のために、ぼくは働かなくてはいけないんだ」 バングラデシュ アリフルくん 13歳

バングラデシュに住むアリフルくんは、小学校1年生のときに学校をやめざるをえなくなり、それ以来12歳になるまで一度も学校に通うことができませんでした。

「家族のため、毎日の食事のために、ぼくは働かなくてはいけないんだ」

アリフルくんとその家族は全員、町のレンガ工場で働いています。一日の給料はわずか300円程度ですが、アリフルくんは“見習い”なので、給料はもらえません。給料の代わりに出される、お昼ごはんがアリフルくんにとっての給料です。

アリフルくんのような、学校をやめざるをえなかった子どもたちのために、ユニセフは、子どもたちが仕事が終わった後に来られるような夜間学校を始めました。それでも、日中、野外で熱い太陽がじりじり照りつけるなかで働いた子どもたちは、疲れ果てて、なかなか毎日学校にくることはできません。

「大人になったら何になりたい?」そんな質問にアリフルくんは「大人になったら何になるか考えることなんて今まで一度もなかったよ」と答えました。遊んだり、笑ったり、学んだり、子どもらしい子ども時代を送り、教育を受けることができた子どもにとって、世界は可能性に満ちあふれたものですが、アリフルくんのような子どもには、将来なりた

いものを夢見ることすら難しいのが現状です。学校に行けなかったために、文字が書けない、計算ができないアリフルくんは、このままだと、将来も今の仕事を続けるしかありません。

ユーラシア大陸



バングラデシュ

インド



© UNICEF/UN016318/Gilbertson VII Photo



© UNICEF/UNI86167/Ramoned

世界には、有給、無給に関わらず、さまざまなかたちで働いている子どもたちがいます。こうした児童労働に従事する5~17歳の子どもは1億6,800万人(2016年5月現在)といわれています。児童労働は子どもたちの権利を侵害し、健全な発達を害するだけでなく、子どもたちから教育の機会を奪います。貧困からぬけ出すチャンスも奪われ、その国の将来の経済発展や社会の安定に悪影響をおよぼします。



## 「戦場から生きのびて」シエラレオネ イシュマエル・ベアさん 37歳

イシュマエルさんは12歳のとき、シエラレオネ内戦（1991年勃発）に巻き込まれます。兄や友人と隣町に遊びに出かけている間、故郷の町モグブエモが襲われ、家族と離れ離れに。イシュマエルさんは何度も危険な目に合いながらもなんとか生きのびます。しかし逃亡中に偶然行き着いた先で、拒めば殺される状況の中、子ども兵士となりました。まだ13歳でした。

「初めは恐怖心と生きることで精いっぱいだった。でも、気がつけば一人前の兵士として戦い続けていた。知らないうちに使わせられていたコカインやマリファナを、手放せなくなっていた。銃だけが自分に力と食料と命を与えてくれる存在になっていた…。准中尉として少年班の分隊も受け持つようになり多くの村を襲い、荒らしてきた。軍の中ではいかに残虐に敵や捕虜を殺せるかで周りに称えられる。ぼくの現実は、いつも『殺すか殺されるか』だった…」

彼は約3年間兵士として戦いつづけます。しかしある日、ユニセフのリハビリセンターに救出され、次第に落ち着きを取り戻します。入所から5カ月を過ぎた頃、おじさんと再会を果たし、センターや新しい家族との生活の中で幸せをかみしめるようになりました。また一方で、日常生活で戦闘のことがフラッシュバックし、悪夢に悩まされるよ

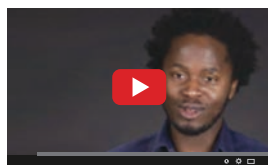
うになります。その後、首都フリータウンでも紛争が激化し、ニューヨークへ逃れました。1997年のことでした。

その後ニューヨークでは国連国際学校で2年間教育を受け、卒業後はオーバリン大学にて政治学で2004年に学位を取得します。過去の経験を2007年に著書『戦場から生きのびて ぼくは少年兵士だった(A Long Way Gone:Memoirs of a Boy Soldier)』として発表。また現在は人権活動家として活躍し、2007年よりユニセフ親善大使を務めています。

彼は今、解放された子どもたちにこう語ります。「紛争下で生きのびるには、知性が必要です。これからは自分の将来のために、その力を使ってほしい」



© UNICEF/UNI127522/Sokki



イシュマエル 解放された子ども

検索

武装勢力から開放された後も続く苦しみにあえぐ子どもたちにイシュマエルさんが語りかけます。(2分58秒)

<https://www.youtube.com/watch?v=c6aMnKqo0yY>



シエラレオネ

地中海

アラビア半島

アフリカ大陸

## 「施設はぼくの怒りや悲しみを取り除いてくれたんだ」

シエラレオネ以外にも世界には子ども兵士として紛争を経験した子どもたちがたくさんいます。子どもたちはユニセフの支援で解放され、施設で社会復帰プログラムを受けながら落ち着きを取り戻していきます。でも本当に平和な社会に適応して生きていけるようになるためには長い長い時間が必要です。カポエイラ(格闘技とダンスを組み合わせたスポーツ)を取り入れたプログラムを受けている子どもが、自らの体験や将来の夢について語ってくれました。

### アイメさん

ぼくは、学校からの帰宅途中に武装グループに誘拐されて、森の中で2年半生活をしたんだ。森にいたころは、武装グループのおきてにしたがって、人を殺したり、暴行したり、いろいろ残酷なことをした…。

カポエイラは、ぼくの中にうつけられた武装グループの残虐なおきてを忘れさせてくれた。カポエイラを習う前のぼくは、すごく攻撃的だったんだ。今のぼくの夢は、カポエイラの先生になることなんだ。家に帰ったら、カポエイラについて、弟とお姉ちゃんに教えてあげたい。



© UNICEF/UNI179106

施設でカポエイラの練習に励む少年たち(コンゴ 2015年2月)



# 映像で学ぼう！～世界の子どもたちとわたしたちの未来～

日本ユニセフ協会のホームページや、YouTube公式チャンネルからおおすすめの映像を紹介します。各教科の授業、特別活動、朝の会・帰りの会などでのお話に、ぜひご活用ください。



## ユニセフと地球のともだち Q 検索

ユニセフの活動（歴史・保健・栄養・教育・水と衛生、子どもの保護、緊急支援）について解説した動画です。この動画を一本みるだけで、ユニセフがどんな分野で、どんな活動をしているのかがわかります。（13分26秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=L1qOhsx4dqM>



社会 国際機構の役割	道徳 国際貢献	総合 国際理解
---------------	------------	------------



## 学校は魔法の場所 南スーダン Q 検索

学校は魔法のような場所。でも、南スーダンで暮らす多くの子どもにとっては、ただの夢にすぎません。南スーダンでは、51%の子どもが学校に通えません。学校に通えたとしても、1クラスに最大125人の生徒がいる教室で勉強しなくてはなりません。そして3人に1人の教員は研修を受けていません。（2分22秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=I8U37COot6M>



英語 国際理解 国際協力	総合 問題解決 探究活動	技術家庭 子どもの成長
-----------------	-----------------	----------------



## マラウイ 気候変動の代償を払う子どもたち Q 検索

アフリカ地域でおきている2年におよぶ異常気象は、干ばつを招き、最も弱い立場にある子どもたちの生活に深刻な影響を及ぼしています。マラウイにおける気候変動の代償のひとつを視覚的に訴える動画です。（55秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=4rREwT4mEn4>



理科 自然環境の保全	総合 環境	技術家庭 子どもの成長 栄養
---------------	----------	-------------------



## 関連動画 SDGs Q 検索

世界の子どもたちがクリエイティブな発想で世界の問題解決に挑む姿や、SDGsができた理由などを紹介するアニメーション作品など、複数の映像を見られます。「世界を変えるなんて大きなことは自分にはできない」そんな子どもたちを勇気づける動画です。（5分16秒）

<http://www.unicef.or.jp/sdgs/movie.html>



理科 持続可能な社会	総合 問題解決 探究活動	社会 国際協力と国際平和の実現
---------------	-----------------	--------------------



## 心の鼓動 シリア Q 検索

シリアの国内避難民で生まれつき視覚障がいのある10歳の少女アンサムさん、避難民となっている子どもたちがコーラスで参加し、紛争で傷ついた街から力強い歌を届けます。心に強く訴えかける音楽の力を感じることのできる動画です。（3分42秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=apBCThwVVxo>



音楽 豊かな情操を養う	道徳 思いやり 国際貢献
----------------	-----------------





# すべての子どもに、 希望を。



春に各学校へお送りしたポスターは、爆撃を避けて洞窟で勉強を続けるシリア・イドリブ県の子  
どもたちをメインに、他にもナイジェリアでボコハラムから逃れてきた少女など、厳しい状況下で、  
希望を持って必死に生きている子どもたちの写真を使用しています。この子どもたちのストーリー  
は、『ユニセフ活動の手引き』でご紹介しているほか、ホームページ内の特設ページで、ストーリー  
や写真に加え、映像をご覧ください。ぜひご活用ください。

子どもと先生の広場

検索

[www.unicef.or.jp/kodomo/](http://www.unicef.or.jp/kodomo/)



unicef  for every child

公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス  
TEL : 03-5789-2014 FAX : 03-5789-2034 E-mail : se-jcu@unicef.or.jp